

英語

【解答】

I	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	d	c	b	d	a
II	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	b	c	b	d	d
III	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	c	d	a	b	d
IV	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	c	d	c	a	d
V	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	a	d	d	b	d
	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10
	b	a	a	d	a
VI	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	d	a	b	b	a

【学習アドバイス】

今年度の入試も昨年度同様、Ⅰ. 会話問題、Ⅱ. 適語補充問題、Ⅲ・Ⅳ. 長文読解問題、Ⅴ. 文法・語法問題、Ⅵ. 整序英作文の大問6題構成であった。全問マークシート形式の選択問題で、提示された科目の中から2科目を選択し100分で解答する形式である。よって、解答時間の目安は50分程度となり、この時間を考慮に入れても受験生が無理なく解答できる難易度と問題数で構成されている。

解答の際にやや高い語彙レベルを要する設問もあるが、概ね難易度は大学入試標準レベルである。

単語・熟語、文法・語法においては、高校で学ぶべきものはすべて確実に習得し、高校の副読本やワークブックなどの問題をスムーズに解答できるようにしておきたい。それでは、各大問の特徴を踏まえて対策を考えていこう。

- I. 会話問題では、教科書レベルの基礎口語表現に基づき、二者間の意思疎通を完成させるような問題が設けられている。高校までで学習すべき表現や簡単な会話のやり取りに基づき、会話の流れを妨げないような表現を選ぶように心がけると良い。発話ごとに訳出することも大切であるが、発話の中の最も大切な表現に絞り、それをつないで会話の流れを追うように努めるとさらに良い。
 - II. 適語補充問題は、1・2文で構成された2行にまたがる文章内に設けられた空所に入れるべき適切な語を選択する形式である。この設問で用意されている表現には、多少難度の高いものがあるが、入試標準レベルの単語帳などを活用し、語彙の増強に努めておけば十分である。丁寧な解釈に基づく日本語訳も良いが、前置詞や副詞を伴ったいわゆる熟語の知識があるとさらに解きやすくなる。
 - Ⅲ・Ⅳ. 長文読解問題は、概ね入試標準レベル程度の表現を用いたやや短めの文章が題材として選ばれており、題名が示されているため、文章のテーマをつかみやすく、文章の内容を推測する手助けになる。設問では、同意表現選択問題、指示内容選択問題、適語句補充問題、内容理解問題、内容（不）一致問題などが出題されており、難度の高い語には語注が付されてある。同意表現選択問題では、類義語の知識ではなく、箇所での丁寧な読解から導き出される適切な表現を選ぶようにすると良い。指示内容選択問題では、意味内容に頼る前に、単数・複数など、指示語が持つ文法上の側面を解釈してから、内容に照らして適切なものを選ぶと良い。適語句補充問題では、意味内容だけでなく、文法上選ぶべき語句を分析することで比較的正答しやすい。内容（不）一致問題に関しては、文章を読みすすめるときに、余白に文章の内容をメモしておく、必要な情報を探すために、選択肢に目を通した後にもう一度文章を読まずに済む。複雑な内容を尋ねておらず、文章自体も長くはないので、焦らず丁寧に文章・選択肢ともに解釈してほしい。文章の内容と一致しない選択肢を選ぶものもあるので、気を付けよう。
 - V. 文法・語法問題では、高校で演習すべき問題に基づき作問されているが、表現や語彙レベルの比較的高いものも見られる。しかしながら、問われていることは高校履修レベル内であるため、むやみやたらに難しい文法問題を解くよりも、基礎～標準レベルの問題を繰り返し演習し、自分の弱点を克服するように準備しておくべきである。
 - VI. 整序英作文問題では和文が与えられているので、比較的解答しやすそうに見える。しかしながら、語順や表現において複雑なものもあるので、日本語を見る前に、SVOCなどの語順にかかわる文法知識で、ある程度の正解の見積もりを出しておいた方が良い。熟語や構文などの学習も非常に役立つ。
- 本学の入試は、高校での基礎学習を丁寧かつ完璧にしておくことが大切である。難しい問題を解く力よりも、英語の基礎・基本を徹底して演習し身につけ、揺るぎのない基礎力を培っておくことが先決である。高校で学習してきたものの中で、何かしら不安のある分野などは、教科書やワークブック、定期テストを活用し、何度も繰り返し基礎演習を行っておこう。